

参考資料

分類名〔野菜〕

参 1	ズッキーニ春作の安定生産技術
-----	----------------

宮城県農業・園芸総合研究所

要約

宮城県内でのズッキーニ栽培の露地春作とハウス早熟では、品種は「グリーンボート2号」や「ブラックボー」を選択し、ハウス早熟ではポット育苗にすることで、苗質及び生育が向上する。

1 取り上げた理由

ズッキーニはウリ科カボチャ属、ペポカボチャの仲間です。未熟な果実を食用とする。宮城県内では栗原市等でズッキーニ栽培の面積が伸びつつあるが、栽培に関する情報は少ない。露地春作とその収穫時期の前進を狙ったハウス早熟について、適した品種と栽培技術を検討し、安定生産技術を明らかにしたため参考資料とする。

2 参考資料

(1) 作型

宮城県内でのズッキーニ春作の作型を図1に示す。

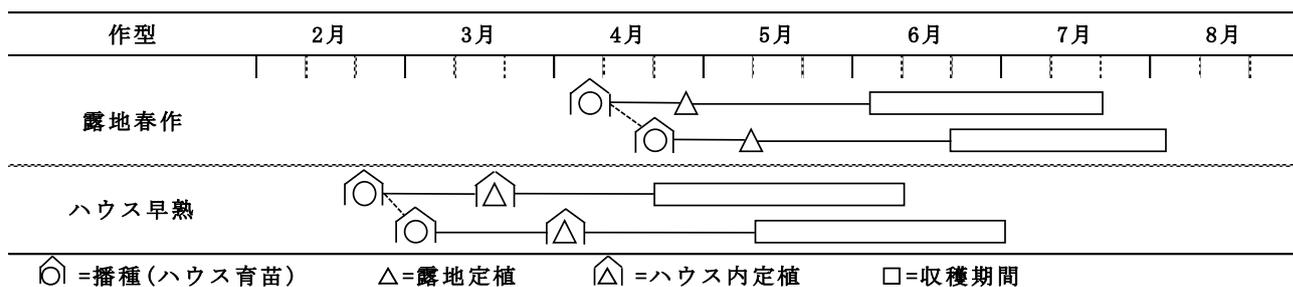


図1 宮城県におけるズッキーニ春作の作型

(2) 品種

果実は濃緑色で円筒形、10a当たりの収量が多く、ズッキーニモザイクウイルス(ZYMV)とカボチャモザイクウイルス(WMV)の抵抗性を持つ「グリーンボート2号」、「ブラックボー」を選択する。「グリーンボート2号」は「ブラックボー」より長期間収穫でき、収穫時期の後半まで収量が安定する。「ブラックボー」は生育、収穫開始日が早く、収穫1週目から10a当たり350kg以上の収量を得ることができる(表1、図2)。

(3) 育苗技術

播種時期が低温期に当たるため、トンネル被覆による保温や温床マットでの加温が必要である。特にハウス早熟栽培の育苗では、2.5号ポット(培土容量:約200ml/ポット)を用いると、草丈は高く葉数が多くなり、定植後の開花開始日と収穫開始日が早くなる(表2)。

3 利活用の留意点

(1) 試験栽培では、基肥を窒素、リン酸、カリウムを各15kg/10aとし、緩効性肥料のLPコートs80(シグモイド型、N:P:K=41:0:0)を基肥と同時に畝内に窒素成分量で5~10kg/10a施用、もしくは粒状肥料の磷硝安加里s604(N:P:K=16:10:14)を株元に窒素成分量で5~10kg/10a施用して追肥を行った。また、生育安定化と雑草防除を目的とし、黒マルチを使用した。

- (2) 栽植密度は、収量と作業性を考慮し、10a 当たり 600～770 株(畝幅 170～190cm, 株間 75～90cm, 1 条植え)を目安とする。
- (3) アブラムシ類, アザミウマ類, うどんこ病等が発生することがあるので, 防除には「ズッキーニ」, 「野菜類」を対象に登録されている農薬を確認の上使用する。
- (4) 不良果(尻細果, 尻太果等)の発生を避けるため, 人工受粉もしくはホルモン剤処理を早朝に行う。
- (5) 試験結果等を参考に作成したズッキーニの経済性の試算値を表 3 に示す。

(問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所野菜部 電話 022-383-8111)

4 背景となった主要な試験研究の概要

(1) 試験研究課題名及び研究期間

イ 宮城から提案する新規園芸品目の栽培技術の開発(平成 28～30 年度)

ロ 参考データ

表 1 ズッキーニの品種が生育, 収量に与える影響(平成 29 年: 栗原市, 露地春作)

品種名	収穫開始時生育(6/12 調査)			収量 ^γ (kg/10a)
	主茎長 ^z (cm)	本葉数(枚)	最大葉身長(cm)	
グリーンボート 2 号	11.8	13.8	29.2	3,950
ブラックボー	15.4	14.7	31.0	2,671
他品種 A	12.6	13.9	27.9	1,947

* 播種日: 4/20, 定植日: 5/10～12, 収穫期間: 「ブラックボー」 6/10～7/6, 「グリーンボート 2 号」 6/10～7/18, 基肥: N=15.1kg/10a(尿素), N=6.3kg/10a(LP コート s80), 栽植密度: 677 株/10a

z: 地際から主茎頂部までの長さ y: 収穫物全体の収量(一部の不良果を含む)

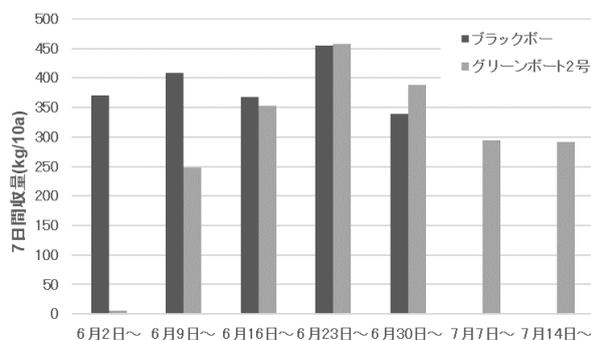


図 2 ズッキーニの 7 日間ごとの収量の品種間差(平成 30 年: 栗原市, 露地春作)

*1 「ブラックボー」: 播種日 4/13, 定植日 4/30～4/31, 収穫期間: 6/2～7/5(34 日間)

*2 「グリーンボート 2 号」: 播種日 4/13, 定植日 5/6～5/7, 収穫期間: 6/7～7/18(42 日間)

*3 基肥: N=25kg/10a P=15kg/10a K=15kg/10a, 追肥: 6/26 施用(麟硝安加里 s604 1 握り/2～3 株), 栽植密度: 680 株/10a

表2 ズッキーニの育苗トレイが定植時苗質，開花，収量に与える影響（平成28年：所内，ハウス早熟）

育苗トレイ	定植時苗質(3/16) ^z		開花開始日 (雌花)	収穫開始日	収量 ^y	
	草丈(cm)	葉数(枚)			着果数(本/株)	換算収量 ^x (kg/10a)
2.5号ポット	14.2	1.5	4月15日	4月25日	29.2	2,821
50穴セルトレイ	13.4	1.2	4月18日	4月28日	28.2	2,724

* 品種：「グリーンボート2号」，播種日：2/23，定植日：3/16，収穫期間：4/28～6/9，基肥：NPK各20kg/10a，栽植密度：690株/10a

z：調査株数 各区10株 y：調査株数 各区12株 x：果実重1本200g，不良果率30%，栽植株数690株/10aを想定し算出

表3 経済性の試算（露地春作，10a当たり）

目標販売量	2,000	kg
想定単価	285	円/kg
粗収入	570,000	円
労働時間	234	時間
経営費	223,218	円
うち物財費	92,708	円
うち出荷・販売経費	130,510	円
農業所得	346,782	円
所得率	60.8	%
1時間当たりの労働報酬	1,482	円

z) 平成28～30年所内試験及び現地試験を参考に作成

y) 市場出荷を想定，平成28～30年現地試験の結果を基に販売単価を算出，単価285円/kg

x) 播種：4月20日，定植日：5月10日，収穫期間：6月10日～7月20日(40日間)を想定し，労働時間を試算

w) 労働力2人，栽培規模10a程度，耕耘，施肥，畝立て，マルチ張り，防除は機械作業，他は手作業の想定

v) 物財費のうち，種苗費，肥料費，農業薬剤費は合わせて53,180円，諸材料費(23,490円)：マルチ(黒マルチ(135cm×200m)，2,500円/本×3本/10a，1作使い切り)を含む，農機具費(7,158円)：トラクター(33ps)付属の畝立てマルチャー，ロータリー，ブロードキャスター，動力噴霧器，管理作業機，軽トラを含む

u) 出荷は箱詰めを想定，出荷販売経費は運賃(2%想定)，各種手数料(12.3%想定)を含む

t) 経営費に人件費は含まれていない

(3) 発表論文等

イ 関連する普及に移す技術

みやぎ発信型新規野菜の安定生産技術(花ズッキーニ)

ロ その他 なし

(4) 共同研究機関 なし